営農情報

◎畜産関係◎

☆9月期ＪＡ主催子牛品評会

８月16日、ＪＡ畜産センターで、９月期子牛品評会を開催しました。成績は、左表のとおりです。（敬称略）

去勢子牛で発育の良いものは早期出荷を行い、飼育費の削減を図り所得の向上に努めましょう。雌子牛については、積極的に品評会に出品し、付加価値の高い優良素牛生産に努めましょう。各種導入事業の有効活用を図り優良雌子牛を導入し、母牛の増頭、更新を積極的に行いましょう。

ＪＡ品評会については、事前に下見をします。詳しいことは畜産課（☎３３－５７４７）までお問い合わせ下さい。

平成２５年９月期ＪＡ子牛品評会成績

	名　　号	出品者（敬称略）
優等賞	ゆ　う　こ	田久見　利　秋
壱等賞	み　　ほ	中　村　利　弘
〃	た　だ　ひ　め	盛　田　美　次
〃	も　も　か	大平落　住　雄
〃	き　く　は　な	入　佐　幸　男
〃	ふ　く　こ	堀　　末　春
弐等賞	さ　く　ら	橋　口　満　秋
〃	も　　え	松　元　とし子
〃	くすはな１００	楠　元　逸　夫

弐等賞は、序列は付けてありません。

☆9月期郡子牛品評会

８月27日、西諸畜連で郡子牛品評会が開催されました。（敬称略）

ＪＡえびの市管内から６頭が出品され、成績は左表の通りです。

平成２５年９月期郡子牛品評会成績

	名　　号	出品者（敬称略）
優等賞	ゆ　う　こ	田久見　利　秋
〃	み　　ほ	中　村　利　弘
壱等賞	き　く　は　な	入　佐　幸　男
〃	も　も　か	大平落　住　雄
〃	た　だ　ひ　め	盛　田　美　次
弐等賞	ふ　く　こ	堀　　末　春

※　壱等賞・弐等賞は、序列は付けてありません。

坂元さんの牛が西諸代表牛に決定

宮崎県畜産共進会
西諸代表牛決定検査

第57回宮崎県畜産共進会西諸代表牛決定検査（種牛の部）が８月23日、西諸畜連で行われました。

第１類から第３類まで、予選をくぐりぬけてきた全24頭が出品。えびの市管内からも１類３頭、２類４頭が出品されました。（下表参照）

出品牛の分類は、第１類が黒毛和種で生後12か月以上17か月未満の「めす」で登録または登記されたもの。第２類が黒毛和種で生後17か月以上22か月未満の「めす」で登録または登記されたものとなっています。

えびの市管内からは、第２類に出品した、坂元幸保さんの「第１１３さくら」号が見事代表牛に選ばれました。

「第１１３さくら」号は、10月23日に都城家畜市場で行われる宮崎県畜産共進会に出場します。

第１類

名　　号	出品者（敬称略）
やましん５７７	拂　田　慶一郎
ゆ　う　な	坂　元　幸　保
な　　な	中　村　利　弘

第２類

名　　号	出品者（敬称略）
第１１３さくら	坂　元　幸　保
第１０９わかば	坂　元　幸　保
あ　り　さ	東　脇　勇　二
みやび１０３	坂　元　幸　保

和牛改良（育種価）について

子牛が生まれつき親から授かった遺伝的能力を育種価といいます。
産肉成績の解析→種雄牛・繁殖雌牛の育種価が判明（子に遺伝する能力ですので父母よりそれぞれ１／２ずつ伝えられます）→産子の能力を推定することにより、育種価が判明します。

和牛の産地としての基盤の強化を図るためには、産地全体の牛群の遺伝的能力（育種価）を高めることが必要です。牛群全体の遺伝的能力の向上を図るためには牛一頭一頭の能力判定が不可欠となります。

これまで雌牛の評価は血統と外貌形質によって行われてきましたので、育種価を用いることにより繁殖雌牛の選抜・淘汰に利用しましょう。

また、能力の数値化で簡単に牛のタイプが分かるため、短所を補う種雄牛を選ぶなど計画交配へ利用しましょう。

※セリ市名簿での記載例

育 種 本 原
①②③④⑤⑥
↓
表示する枝肉形質は左より

〔枝肉重量①・ロース芯面積②・ばらの厚さ③・皮下脂肪厚④・歩留基準値⑤・脂肪交雑⑥〕

表示対象牛は父、母の育種価が判明している子牛

A：推定育種価判明頭数上位 25％以上
B：推定育種価の平均以上で上位 25％未満
C：推定育種価平均未満

衛生対策による生産性向上

石灰消毒

発熱、強アルカリ性、脂質への浸透作用等があり、なかでも強アルカリ性作用がウイルス及びほとんどの細菌病原体に対して強力な消毒効果がある。

このことから、高病原性鳥インフルエンザ発生時の緊急的な対策をはじめ、低コストかつ効果の高い消毒薬として広く活用されている。

石灰の種類

○消石灰（しょうせっかい）･･･ 水酸化カルシウム（Ca（OH)2）が主成分
強アルカリによる消毒効果があり、比較的安全に、周辺環境にもダメージが少ない。

○石灰水 ･･･ 水酸化カルシウム（Ca（OH)2）の飽和液、水溶液
強アルカリによる消毒効果があるが、水分がなくなるころには効果がなくなる。
１％消石灰液は、踏み込み消毒槽としても有効。(1% 逆性石けんの追加でさらに効果が増強する)
水に濡れた消石灰は石灰水になり同様に消毒効果はあるが、流れてしまったり、水分がなくなり乾燥する頃には炭酸カルシウムになって効果がなくなるので、粉状のままの方が「待ち受け消毒」としてはより持続性が期待できる。

※以下の炭酸カルシウムを主成分とした石灰に、消毒効果は期待できない。

○石灰石 ･･･ 炭酸カルシウム（CaCO3）
白線引に用いられる。

○有機石灰 ･･･（CaCO3）
カキ、ホタテの貝殻や卵の殻を粉砕して作られた動物質由来の石灰（土壌改良剤）。

○苦土石灰（くどせっかい）、苦土炭カル苦土（マグネシウム）を含む石灰岩から作られたもので、石灰質肥料として使用される。

営農情報

◎農産関係◎

☆水稲

（担当：内村・朝倉）

現在の生育は旺盛で例年よりも4日程度早く推移しているようです。しかしトビイロウンカ警報発令中です！　発生多発の圃場は坪枯れする可能性が高くなります。圃場を確認し、発生がみられた際は後述にある臨機防除をしましょう。

トビイロウンカ（秋ウンカ）はその株元で急激に繁殖、吸汁し、坪枯れをおこします。10株当たり2匹いれば防除することが基準となっていますので、圃場をよく確認してみましょう。

病気についてはいもち病の発生が若干見られるようです。特に葉いもち病から穂いもち病へとなる可能性がありますので注意が必要です。害虫と合わせて防除の徹底をお願いします。

刈り取りまで約1ヶ月となりました。早期落水防止など収穫までの管理徹底をお願いします。

※トビイロウンカ警報発令中！※

8月16日付で西諸県地域を中心にトビイロウンカの警報が発表されました。
異常発生している場合は一日でも早く対応が必要になります。圃場を確認してください。

通常防除が必要な発生数（10株あたり・えびの市内）

異常発生中の圃場の状況（10株あたり・えびの市内）

1．【臨機防除】

◎薬剤「スタークル粉剤DL」
対象（ウンカ類・カメムシ類）
散布量（3kg／10a当り）
使用時期（収穫前7日前まで）

無人ヘリ防除を含む「穂揃い期の仕上げ防除」を行なったところであっても、臨機の追加防除を行うかどうかこまめに圃場を確認しましょう。

※農薬によって使用制限がありますので、ラベル記載事項の確認や、購入の際に問い合わせるなど、必ず確認をお願いします。時期的にすでに使用できない農薬もあるので注意が必要です。特に10月に入ってから刈り取りが始まれば防除は原則できません。

●カメムシの被害により発生する斑点米は等級格下げの大きな要因となっています。今年もえびの市管内の圃場で発生を確認しています。重点防除・臨機防除でウンカ類と合わせてカメムシの防除を行いましょう。

2．水管理

これからの管理は、登熟歩合と千粒重を高める重要な時期です。適度な水管理により葉の枯れあがりを少なくするとともに、根の活力を維持する必要がありますので、湿田などや水利の関係でやむえないところを除いて収穫前の5～7日前までは間断かん水（3日水入れて1日落とすなど）を徹底しましょう。水田に湿り気のある程度でも大丈夫です。

◎登熟中期（出穂後20日まで）に
カラカラに落水すると「乳心白米」の発生が多くなります。

◎登熟後期（出穂後30日まで）に
カラカラに落水し、急に降雨などがあると「胴割れ」や「くず米」の発生が多くなります。

※たっぷりの水でかん水しなくても、飽水状態（足跡に水があるなど、ひたひたに水がある状態）でも効果はありますので十分な管理をお願いします。

《お願い》

水管理につきましては、収穫までの重要な作業の一つです。各地域の水利組合など用水（水路）を管理されておられる皆様方へ、早期落水防止など、水管理について呼び掛けを行っていますので、ご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いします。

3．適期収穫

収穫時期の適否は米の品質、食味に大きく影響しますので適期収穫に努めましょう。

〈収穫適期判断の目安〉

①籾の黄化程度で判断
全籾数の約80％が黄化した時期

②出穂後の積算気温で判断
９００℃～１０５０℃
（出穂以降の一日の平均気温の積算気温）

③出穂後の日数で判断
出穂後40日～45日

※それぞれ水田毎の出穂期を基準として参考にしてください。今後の天候（気温）によっては、登熟日数が変動する場合もありますので、籾の黄化程度を基準に判断するとよいと思います。

『にこまる』の収穫期について

今年作付がすすんでいる新品種「にこまる」は、ヒノヒカリに比べ、晩生の品種です。同時期に植えた場合、５日から７日程度、適期が遅くなります。また収穫期における葉色が落ちにくい性質があり、適期を見誤ることなく、実際に圃場に入り穂色から判断するようにしましょう。また混入防止のため、コンバインの清掃や出荷の際は十分に情報が伝わるように心がけましょう。

《収穫後のムレ米（ヤケ米）の発生を防ぐため、収穫後は速やかにライスセンターや籾摺り業者等に搬入しましょう》
※持ち込む前には、持ち込み先に事前連絡を必ずお願いします。

☆「栽培管理記録簿」の提出について

今年も、米の栽培管理記録簿の提出をお願いします。

ＪＡ米に該当する用件として栽培管理記録簿提出が不可欠です。内容の整理を行い、提出に御協力にお願いします。

無人ヘリで病害虫防除

８月８日から12日までの５日間、えびの市内の各水田で、第１回目の無人ヘリコプターによる水稲農薬の重点防除を実施しました。穂が出る直前の穂ばらみ期に、稲を病害虫から守ろうと実施するもので、今年で９年目になります。

ウンカやコブノメイガ等に効くトレボンエアーと、いもち病や紋枯病等に効くアミスターエイトの２種類の農薬を混合し、産業用無人ヘリコプターの操作資格を持つオペレーターが散布しました。

☆大豆

（担当：内村・朝倉）

◎防除

・ハスモンヨトウの幼虫は大きくなると薬剤による防除効果が劣りますので発生を見たら早めの防除を心がけましょう。

〈薬剤〉ノーモルト乳剤、ラービンフロアブル、ロムダン粉剤など

・発生量が多い等防除回数が多くなる場合は、同一薬剤の連用は避けましょう。

・幼莢期から子実の肥大期（９月中旬頃から10月上旬頃までの間）になったら紫斑病とカメムシ類の防除を１～２回行いましょう。

〈薬剤〉
スミトップＭ粉剤
３～４kg／10a

☆そば

（担当：内村・朝倉）

◎そばの管理

播種時及び播種後において大雨が降った場合は、圃場の排水対策に努めましょう。

また、そばは生育が早く、雑草を抑える力が比較的強いですが、条播栽培では生育初期に畝間の雑草が問題になりますので、早めに中耕します。

さらに倒伏防止のため、開花始めの培土が効果的です。

年柄によってはハスモンヨトウなどの害虫類の発生が見られますが、使用出来る登録農薬（※除草剤を含む）が非常に少ない品目でありますので、農薬使用の際はＪＡまでご確認ください。

☆そばの出荷事前講習会を予定しています。出荷方法や品種確認、生産履歴の配布など行う予定です。

日程など決定しましたら改めて広報などでご連絡します。

あたたかい　言葉のシャワーで　えがおさく

営農情報

◎農薬混合の手順
（次の順番で混用してください）
①水
②展着剤
③液剤・乳剤
④水溶材・水和剤
⑤フロアブル剤
⑥液肥

☆白ネギ

（担当：加治佐）

1．圃場の管理
　9月も半ばを過ぎ、残暑が緩やかになってくると土寄せの時期となります。追肥を行い、分岐点の下5㎝程度までを目安に土寄せを行ないましょう。また、引き続き排水対策は十分に行うようにしましょう。
2．病害虫の管理
　数多く圃場に足を運び、ネギの状態を観察しましょう。病害の病症をいち早く察知し、早期防除を行います。薬剤については、農産園芸課（☎33－5756）までお問い合わせください。
3．台風対策
　台風の風対策として、通常の土寄せ以上に土を寄せた場合は、台風の通過後に分岐点の下5㎝まで土を払い落とすようにしましょう。また、病害の発生を抑えるため、必ず薬剤散布を行いましょう。

◎園芸関係◎

☆ピーマン

（担当：中村）

　ピーマンの切り返しから発生した新芽の整理をしてください。切り返し後は、中心付近のふところ枝に着果させることで収量が向上します。主枝を低い枝に切り替え11月末まで収量を上げるように目標を持って管理に努めてください。
　乾燥が続き、ハダニの発生が見られます。また、気温の高低と高湿度で黒枯れ病の発生に注意して管理を行いましょう。
　新ＲＢパワー１０００倍液を１週間間隔で定期的に土壌潅注し発根を促進して着果対策をします。過乾燥で高温になると尻腐れ果の発生を助長しますのでカルアップ５００倍を１週間間隔で葉面散布し、通路まで湿度があるように通路潅水を行いましょう。
　土壌のＰＨが高く黄化症が発生している場合は、土壌のカルシウム分が高く土壌で鉄分が不足気味になっているため、ＯＫＦ-１を１０００倍で潅注し管理を行いましょう。

☆ゴーヤー

（担当：中村）

　８月に晴天が続き、草勢が低下しています。新ＲＢパワー１０００倍とＯＫＦ-１の１０００倍を混用し、土壌潅注機で土壌潅注を実施し草勢回復に努めましょう。
　カメムシの吸汁害果に注意して選果選別を行ってください。８月下旬から尻腐果とカメムシの被害果が発生していますので、カメムシにはスタークル顆粒水溶剤とカルアップ５００倍液を散布して管理を行いましょう。また、降雨前・降雨後はＺボルドーを予防的に散布し、腐敗果を軽減するための対策を行いましょう。

☆生姜

（担当：山下）

　根塊の肥大時期で、この時期に土壌乾燥が続くと重量に影響が出てきます。夕方7時以降涼しくなってから潅水を行ってください。
　また、土壌中から表面に根が露出しているものが増えていますので、定期的に圃場を見回り、早めに培土を行なってください。鍬等で２㎝程度土がかぶる程度行ってください。
　アワノメイガや紋枯病の予防のため、パダンＳＧ顆粒水和剤＋ダコニール１０００の散布を行いましょう。
　根茎腐敗病の発生した圃場については、速やかに連絡をください。

☆きく

（担当：加治佐）

　９月定植については事前に電照施設の点検を行いましょう。電照施設の不備により花芽を付けて草丈が短く商品価値が落ちるケースがあるようですので注意しましょう。また、日中はまだまだ高温になりますので換気に努めるようにしましょう。

☆加工かんしょ

（担当：柊山）

　定植してから１００日以上経過し、収穫が間近となって来ました。試し掘りを行って直接生育状況を確かめてください。
　病害虫については、ヨトウ虫などの発生が各圃場で多く見受けられます。枝葉を食害し生育が阻害される恐れがありますので防除を徹底してください。
　使用農薬については、トレボン乳剤・ラービンフロアブル・フェニックス顆粒水和剤などを使用してください。

☆加工人参・秋作加工大根

（担当：柊山）

　加工人参は播種時期に入っていますので播種時期を守りましょう。
　加工大根については、９月５日～９月20日までが播種時期となりますが、圃場の準備が遅れている生産者の方は早めの準備をお願いします。

☆イチゴ

（担当：山下）

花芽検鏡確認後・定植！

花芽検鏡
・品種ごと新葉の大と小（大苗中苗小苗）の３本は必ず確認してください。

苗の管理
・育苗時期の摘葉回数が多いほどクラウンが太り、がっちりした苗が育成できます。しかし、定植20日前までが最終葉かぎです。（クラウン径は８～10㎜目標）

定植・労力軽減
・定植～開花の約１ヶ月間の管理によって収量に差がつきます。
・深植えは避け、クラウンが見えるようにしましょう。
・計画的な定植が出来るよう古ビニール等のベタ掛け、または天井への被覆を行います。根張りの促進を図るため、団粒構造を大事にしてください。
・苗の下葉整理をし、病害虫の本圃への持ち込みを抑制しましょう。
・寒冷しゃの被覆を行いましょう。
・潅水チューブセット後定植しましょう。（定植後１ヶ月間はクラウン部が湿るように活着促進を図る）

定植後の管理
・活着をスムーズにして葉色を出します。（草勢がつかないと２果房の分化が早まり、芽なし株の発生の恐れがあります）。対策として、活着促進を図るため、定植後１週間は根鉢中心に十分手灌水を行い、ポット床土と本圃をなじませてください。
・マルチ張りは、定植14日後から出蕾前までに行いましょう。張った後は、根張り促進を図るため、株元あたりまであげておきます。

病害虫の管理
　炭そ病・うどんこ病の防除は、ローテーションでお願いします。

（例）
定植前
ゲッター水和剤１０００倍
（使用時期定植前日まで）
定植前
ベルクート水和剤１０００倍＋
　コテツフロアブル２０００倍
活着後
ポリオキシンＡＬ乳剤１０００倍
＋モスピラン水溶剤２０００倍
※ハスモンヨトウ及びダニの防除も注意してください。

☆キャベツ

（担当：柊山）

　秋作キャベツの作付が、８月から始まっています。これから定植時期を迎える生産者の方は、早めの圃場準備をお願いします。
　また害虫の初期防除にはプレバソンフロアブルを１００倍液で育苗トレーに散布しましょう。除草についてはフイールドスターを全面土壌散布で10ａ当り75～１００㎖の散布をお願いします。

☆栗

（担当：山下）

　出荷の際は病害虫果の混入には十分注意して出荷をしましょう。Ｓ果、裂果の混入がないように家庭選別を徹底してください。

８月20日に行った栗目揃え会

☆カボチャ

（担当：梅木）

　人工交配を行い13～17節前後の雌花を着果させるようにしてください。着果し、果実がソフトボール程度の大きさになったら果実の下にマットを敷いてください。果実につるのとげが当たると傷果になってしまうため、当たらないよう竹等を準備し、つるの誘導を行ってください。親づる１本仕立てとして、側枝は早めに除去しましょう。

☆加工ほうれん草

（担当：中村）

　ほうれん草の圃場準備のため、サブソイラー等で排水を良好にします。特に水田で作付する場合は、排水対策を必ず行ってください。
　９月の播種作業において、地温が高かったり乾燥している場合は発芽が悪いので注意して播種を行ってください。種子は、10ａ当たりの収量を上げるために９月播きは４万５千粒程（Ｍ粒１・５袋）を播きましょう。
　平成25年産ほうれん草の作付け希望者を募集しています。里芋を収穫した圃場にほうれん草を作付できますので、ご検討をお願いします。播種時期は９月中旬～11月中旬で収穫時期が11月中旬～４月下旬までです。作付け希望の方は農産園芸課（３３－５７５６）までお早めにご連絡ください。

☆ハウスキンカン

（担当：山下）

　果実肥大期は10ｔ／10ａ、７～10日間隔で灌水を行ってください。
　傷果や新梢は養分競合を避けるため取り除きましょう。
　降雨後は黒点病の防除を行い、園内にある枯れ枝は全て取り除いて園内から持ち出してください。園内の除草をして管理を行いましょう。
　ハダニの発生には十分注意して管理を行ってください。

「関係ない」　そう思わずに　勇気を出そう

営農情報　◎担い手支援関係◎

稲刈作業の申込み受付中

『実りの秋』が近づいてまいりました。（株）ＪＡアグリランド田の神さぁでは稲刈り作業の申し込みを受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

なお、稲刈りシーズン直前でのお申し込みについてはお受けできない場合がありますので早めのご相談をお願いします。

※稲わら作業（反転集草・梱包）、畦塗り、堆肥散布等についても随時受け付けています。

○作業料金は、「ＪＡえびの市農業機械銀行農作業料金表」に準じます。

お申し込みは
（株）ＪＡアグリランド田の神さぁ（☎３３－０１１１）まで

－丁寧な作業をお約束！－

㈱ＪＡアグリランド田の神さぁ

―えびの市大字原田 2206 番地（旧 JA 飯野駅前農業倉庫事務所跡）―

農業労災保険に加入しませんか！

今年もえびの市内で農業用機械による負傷事故が発生しています。
農業用機械等による農作業が原因で負傷や疾病にかかっても、農業労災保険に加入していればその療養期間中は全額無料で治療が受けられます。また、療養期間中（入院・通院）は休業補償金が支給される等の補償内容となっています。

中途加入も月割り保険料で加入できます。

※年間保険料

年間の保険料は、年間の農業所得に基づき保険料算定基礎額と農業所得がほぼ等しくなるよう3,500円～ 20,000円の範囲から給付基礎日額を選んでいただき、この額を基礎に算出されます。具体的には下の表のようになります。

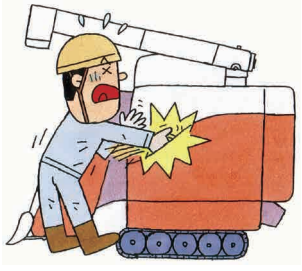
(例)　(単位:円)

給付基礎日額	保険料算定基礎額	年間保険料（掛金）	
		特定農作業従事者	指定農業機械作業従事者
１２，０００	４，３８０，０００	４４，０１９	２２，１１９
１０，０００	３，６５０，０００	３６，６８２	１８，４３２
７，０００	２，５５５，０００	２５，６７７	１２，９０２
５，０００	１，８２５，０００	１８，３４１	９，２１６

＊特定農作業従事者加入要件は、経営耕地面積２ｈａ以上または年間農畜産物販売金額　３００万円以上の個別経営の本人及び家族従事者です。

詳しいお問い合わせ、お申し込みは
担い手支援課　℡（３３－５７５８）
飯野支店　℡（３３－１０１１）
加久藤支店　℡（３５－１２１１）
真幸支店　℡（３７－１３１１）

組合員の皆さん！
いざという時のために、農業労災保険に加入しましょう！



JA えびの市は、人権啓発推進事業に取り組んでいます。